

沖縄科学技術大学院大学学園法附則第14条に基づく検討に向けた
今後の総括的な議論の進め方について

令和2年●月

OIST 検討会座長 相澤益男

平成31年3月に取りまとめた「評価の視点」を踏まえ、令和元年度は4回にわたり5つの各論について議論を行い、今回、各論それぞれの個別の評価の視点に基づく評価及び今後の検討の方向性を整理したところであるが、今後は、OISTの総合的な評価に向けて、引き続き、議論を進める必要がある。その際に留意すべき点は以下の通りと考える。

- ネイチャーインデックスでの高評価等、国際競争力を短期間で持てるようになったことを始めとする、これまでのOISTの成果・取組を国際的なベンチマークによる検証等も踏まえ、どのように評価するか。
- 中長期的な視点から計画的にOISTの規模や在り方等を政府も含めて検討する枠組みの必要性やOISTが将来目指すべき規模を考える上での、クリティカル・マスの考え方やその根拠、更には、日本の科学技術政策全体の中でOISTをどう位置付けていくべきか。
- OISTが国際的頭脳循環の拠点になることが沖縄、日本にとっても重要であり、その方策を検討し、実行していく必要があるのではないか。

上記の点も念頭に、令和2年夏以降は、沖縄におけるヒアリングや、中長期的なOISTの在り方を含めた総括的な議論を進め、令和3年夏頃までを目途として、本検討会としての一定の結論を得ることとする。